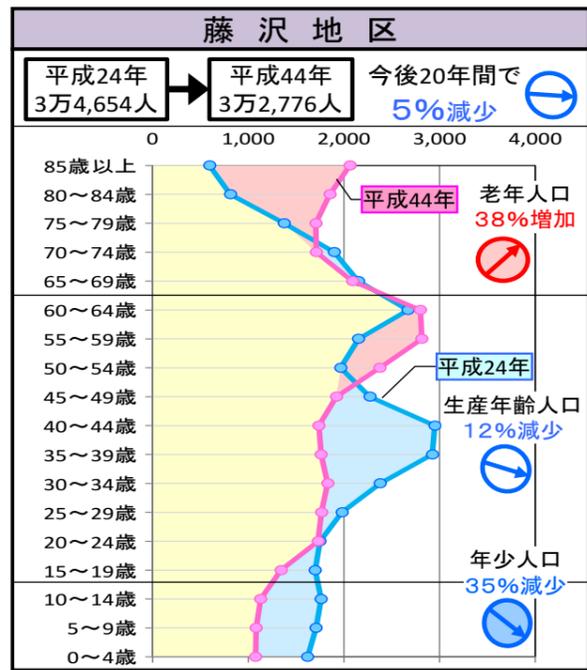


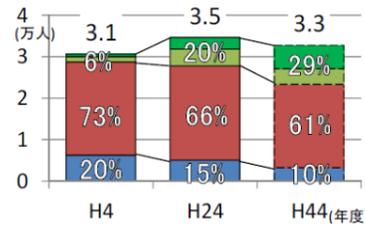
藤沢第2地区の概要

【人口動向】



【人口動向の特徴】

- 藤沢地区は、高齢者人口は約38%の増加予測となっており、高齢者人口が市内で2番目に多く、そのうちの60% (約5,600人) が後期高齢者となっています。
- 地区内3校の小学校ではH16～H26の10年間で、藤沢南小は156人増加、藤沢東小は42人増加。一方、藤沢小は164人減少と同地区内の増減に大きな差が生じています。



	平成24年(比率)	平成44年(比率)
老年人口	6,829人(20%)	9,421人(29%)
生産年齢人口	22,738人(66%)	20,070人(61%)
年少人口	5,087人(15%)	3,285人(10%)

【公共施設の配置状況】

施設の種類	施設名	
地域対応施設	公民館	東藤沢公民館
	小学校	藤沢南小学校 藤沢東小学校
	中学校	上藤沢中学校
	保育所	藤沢保育所
	学童保育室	藤沢南学童保育室 藤沢東学童保育室

【施設配置の特徴】

- 地域バランスを考慮して藤沢南小学校を地域内の施設とし、藤沢東小学校との統合を検討することとします。また、小学校と併せて学童保育室も統合対象として検討することとします。
- 小学校以外の地域対応施設は1施設ずつとなっており、統廃合の対象とはなりません。
- 保育所は、将来的には藤沢地区で1施設とする計画です。

【公共施設の現状と課題】

- 東藤沢公民館は、建設してから20年以上が経過しており、今後計画的な改修を行う必要があります。また、稼働率は35%となっており、利用状況としては活発ではありません。
- 地区内の学校施設の全てが築30年を超えており老朽化していることから、計画的な改修が求められます。
- 児童数については、ピーク時(藤沢東:24学級920人)(藤沢南:28学級1,159人)と比較して、藤沢東小学校が7割、藤沢南小学校が5割程度となっており、減少傾向にあります。
- 生徒数についてピーク時(上藤沢:16学級657人)と比較して、6割程度となっています。
- 学校については、施設の老朽化の対応と共に児童生徒数の推移を考慮して施設の再整備が必要です。
- 藤沢保育所は築18年が経過しており、今後十数年で改修が必要です。平成28年度は、定員に対して80%(定員120人/入所96人)の入所率となっており、比較的高い状況です。
- 学童保育室については、藤沢南学童保育室と藤沢東学童保育室の2つの学童保育室が小学校地内に設置されています。藤沢東学童保育室は、築年数が30年以上を経過し、老朽化が進んでいることから、今後計画的な修繕が必要です。

【地区の成り立ちと現状、将来の見通し】

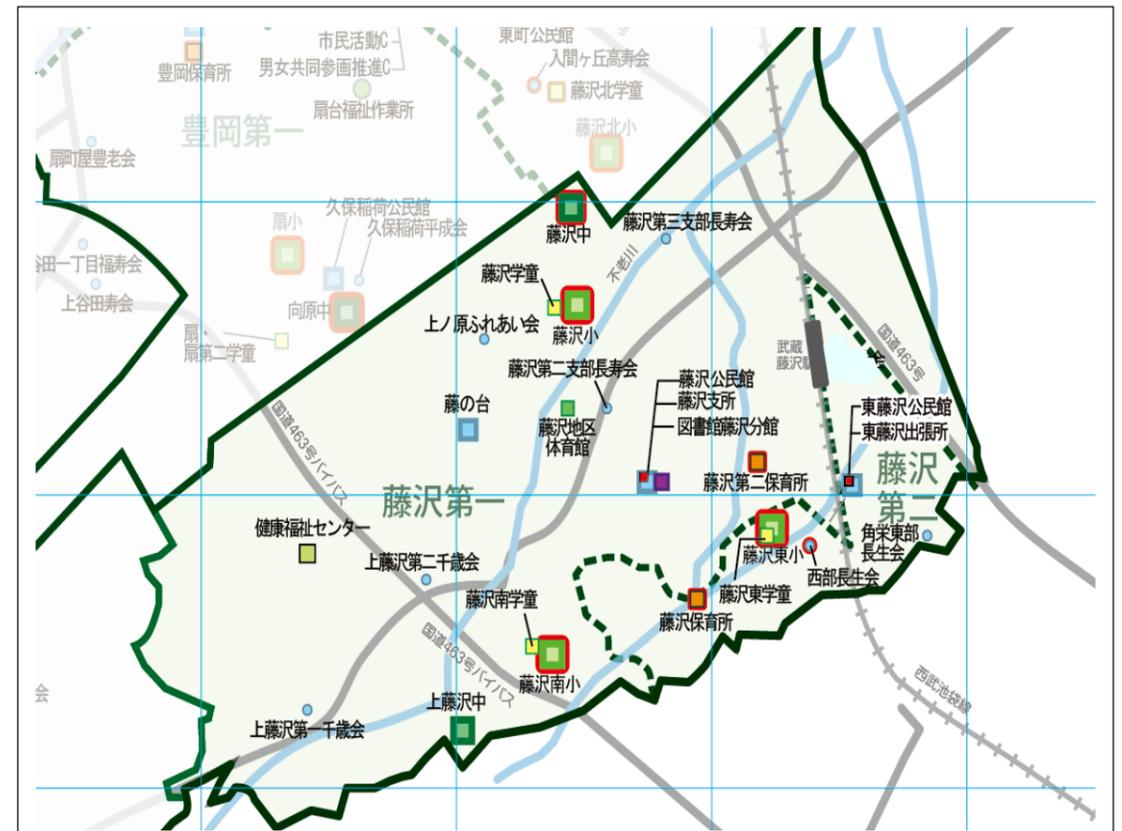
【地区全体】

- この地区は、武蔵藤沢駅を中心に、昭和30年代以降の大規模宅地開発や、都心への通勤通学の利便性の良さによる近年の大型集合住宅や大規模店舗の建設により、人口が急増した地区です。
- 近年、大規模な区画整理事業が行われ人口が増加しましたが、今後20年間では減少に転じることが見込まれます。この地区は、生産年齢人口と年少人口の減少率が比較的緩やかとなっており、現在は高齢化率も市内では最も低い地区です。しかし、今後20年間では老年人口は約38%増加し、高齢者数の増加は、市内でも豊岡地区に次いで多くなる予測です。

【藤沢第2地区】

- 地形的には、おおむね平坦地であり、地区の南部が所沢市と接しています。
- この地区には、武蔵藤沢駅があり、所沢市の狭山ヶ丘駅にも近い地域です。路線バスの設定はありませんが、徒歩や自転車で駅へアクセスすることができます。
- 昭和40年代の宅地開発により整備された地区であり、一般的に道路が狭く、路線バスは運行されていません。
- 地区としては、武蔵藤沢駅周辺に商業施設や商店街が立ち並ぶものの、主として住宅が中心となっています。

【施設配置図】



【公民館の現状と課題】

①建物状況

	延床面積	建設年度	築年数	構造	土地所有
東藤沢公民館	1,064.05 m ²	平成 6 年	23 年	RC 造	市

・建設後 20 年以上が経過しており、計画的な修繕対策の検討が必要になっています。

②利用状況

	利用件数	利用者数	稼働率	住民 1 人当りの年間利用回数	トータルコスト
東藤沢公民館	4,676 件	61,341 人	35%	7.4 回	4,094 万円

- ・利用者数については、全公民館の平均利用者数の 39,793 人を上回っています。
- ・稼働率は、全公民館の平均稼働率 34%を上回っています。
- ・住民一人当たりの年間利用回数を見ると、全公民館の平均利用回数の 3.6 回を大きく上回っています。
- ・トータルコストについては、全公民館の平均額 4,069 万円を若干上回っています。

【小中学校の現状と課題】

①建物状況

	延床面積	建設年度	築年数	構造	土地所有
藤沢南小学校	5,890.00 m ²	昭和 46 年	46 年	RC 造	市
藤沢東小学校	6,531.00 m ²	昭和 50 年	42 年	RC 造	市
上藤沢中学校	6,937.00 m ²	昭和 58 年	34 年	RC 造	市

・藤沢南小学校、藤沢東小学校の両施設とも築 40 年超と老朽化が進んでおり、計画的な修繕対策の検討が必要となっています。

②利用状況（各年 5 月 1 日現在）

	平成 24 年度 児童生徒数	平成 24 年度 学級数	平成 29 年度 児童生徒数	平成 29 年度 学級数	児童生徒 数増減率
藤沢南小学校	482 人	15 学級	536 人	20 学級	+11%
藤沢東小学校	664 人	20 学級	655 人	22 学級	-1%
上藤沢中学校	392 人	11 学級	408 人	12 学級	+4%

- ・児童生徒数については、5 年前と比較すると、藤沢東小学校は若干減少していますが、藤沢南小学校と上藤沢中学校は増加しています。
- ・今後も減少率は少ないことが予想され、当面は統廃合の検討は難しい状況となっています。

【保育所の現状と課題】

①建物状況

	延床面積	建設年度	築年数	構造	土地所有
藤沢保育所	1,081.37 m ²	平成 11 年	18 年	RC 造	市

・建設から 18 年が経過しており、今後計画的な修繕対策の検討が必要となっています。

②利用状況

	定員	平成 24 年度 入所児童数	平成 29 年度 入所児童数	減少率
藤沢保育所	120 人	131 人	98 人	25%

- ・入所児童数は、5 年前との比較では、25%と大きく減少しています。
- ・入所児童数は過去 5 年間で徐々に減少しており、社会全体で待機児童の問題が発生していることを考慮すると、運営形態等が市民ニーズに合っていない可能性があります。
- ・定員に対して入所児童数が約 3 分の 2 となっており、他の保育所との統合の余地があります。

《藤沢第 2 地区の検討課題》

- ・小学校については、市街化が進んでいる地域であり、今後新たな学校用地となり得る広い土地はないため、既存の施設を活用することを前提とします。
- ・学童保育室については、小学校の改修に合わせて校舎への複合化を図るとともに、小学校に合わせて統合します。
- ・中学校については、既存の施設を活用することを前提としますが、小学校跡地の活用や新たな用地取得も視野に入れて検討します。
- ・保育所については、施設が比較的新しく、地区の人口減少が少ないため、当面は、既存施設を活用することを前提とします。
- ・地区内に中学校が配置されていないことに充分配慮する必要があります。
- ・公民館は地区内に一つしかないため、今後も継続的な活用を前提に長寿命化を図っていく必要があります。

※各施設のデータは原則として「公共施設マネジメント白書」から引用